

① 学校におけるスクールドッグの活用について

学校生活に不安を抱える児童生徒への支援では、学習面だけでなく、安心して学校で過ごせる環境づくりや、子どもが他者と関わるきっかけをつくることも重要です。近年、学校に犬を取り入れ、子どもとの触れ合いや授業等を通して、心の安定、コミュニケーション、命の教育などにつなげる「スクールドッグ」の取り組みが各地で行われています。本町においても、不登校や登校しぶりなどへの支援の選択肢の一つとして、こうした動物との触れ合いを教育に生かす取り組みについて検討する余地があると考え、以下の質問をします。

- (1) 本町における不登校や登校しぶりなど、学校生活に不安を抱える児童生徒の現状と、現在行っている支援についてお聞きします。
- (2) スクールドッグについて、本町はどのような取り組みであると認識しているのか。また、心のケア、登校のきっかけづくり、コミュニケーション、命の教育などへの活用について、どのように考えているのかお聞きします。
- (3) スクールドッグを学校で活用する場合、アレルギーや動物が苦手な児童生徒への配慮、安全管理、衛生管理、活動を担う人材、費用など、どのような課題があると認識しているのかお聞きします。
- (4) 県内外の先進事例について教育委員会として調査・研究し、学校現場や関係者の意見を聞くなど、導入の可能性を検討する考えがあるのかお聞きします。
- (5) 本格導入に限らず、専門家や訓練された犬を活用した体験会、モデル校での試行など、小規模な取り組みから検討する考えがあるのかお聞きします。

② 高田南土地区画整理事業を見据えた交通渋滞対策について

高田南土地区画整理事業が進み、今後の人口増加や交通量の増加が見込まれます。一方、高田越トンネルから高田越交差点周辺では、現在も朝夕を中心に交通渋滞が発生しています。令和7年6月定例会の一般質問では、長崎県、長崎市、時津町など関係機関との協議を継続するとともに、高田越交差点から国道206号につながる道路について、県との協議を続けていくとの答弁がありました。その後約1年が経過したことから、これまでの取り組みと、今後の具体的な対策について質問します。

- (1) 令和7年6月定例会の一般質問以降、高田越交差点周辺の渋滞対策について、長崎県、長崎市、時津町など関係機関と何回程度協議を行い、どのような内容を議題とし、具体的にどのような進展があったのかお聞きします。
- (2) 高田越交差点から国道206号につながる道路について、令和7年6月定例会の答弁では県との協議を続けるとのことでしたが、その後の協議状況と、2車線化を含めた道路改良について、県からどのような見解が示されているのかお聞きします。
- (3) 高田南土地区画整理事業の進展に伴い、今後どの程度の人口・世帯数及び交通量の増加を見込んでいるのか。また、その増加を踏まえ、現在の道路網で将来的な交通需要に対応できているのかお聞きします。
- (4) 三千隠線の開通や（仮称）町道柳田椿林線の整備によって交通量の分散が期待されるとの答弁でしたが、これらの道路整備によって高田越交差点周辺の交通量がどの程度分散されると見込んでいるのかお聞きします。
- (5) 高田越交差点周辺の渋滞について、現在、町として主なボトルネックをどこにあると認識しているのか。また、今後、高田南地区の住宅や人口が増加する前に、優先して取り組むべき対策をどのように考えているのかお聞きします。

③ 本町におけるタブレットを活用した学習について

本町では、GIGAスクール構想の下、令和2年度から児童生徒1人1台のタブレット端末を導入し、現在ではさまざまな教科で活用されています。これまでの答弁からも、画像や動画、グラフなどを活用した表現や、児童同士の考えの共有、個々の学習状況に応じた学習など、タブレットを活用することによる効果があると認識しています。

特に、算数の立体図形を動かしながら理解したり、理科で月や地球の動きを映像で確認したり、体育で自分の動きを撮影して課題を確認したりするなど、紙だけではイメージしにくいものを可視化できることは、タブレットならではの大きな利点であると考えます。

一方で、漢字を書く、計算する、文章を書くなど、鉛筆やノートを使って手を動かすこと自体に意味がある学習もあります。特に小学校低学年では、文字を書く力や計算する力、紙に向かって集中して学習する習慣を身につけることも重要であり、タブレットを使用することが必ずしも全ての学習において最適とは限らないと考えます。

また、タブレットの使用時間が増えることで、視力や姿勢など児童の健康面への影響を心配する声もあります。タブレットだけが視力低下の原因とは言えませんが、今後もGIGAスクール構想を推進していくのであれば、学習効果だけでなく、児童の健康面についても継続的に検証していく必要があると考えます。

さらに、タブレットの導入によって、教材の準備や児童の学習状況の把握、採点など、教員の授業準備や業務の在り方も変化していると考えます。導入から5年が経過した現在、児童にとっての学習効果だけでなく、教員の負担や業務効率についても検証する時期に来ているのではないのでしょうか。

そこで、以下の質問をします。

- (1) タブレット導入から5年が経過した現在、学習意欲や学力、理解度などについて、導入前と比較してどのような具体的な効果が確認されているのか。また、タブレットを使用したことで、紙では理解しにくかった内容をイメージしやすくなった具体的な授業や学習事例があればお聞きます。
- (2) タブレットの活用が進む中で、教材の準備や資料作成、児童の学習状況の把握、採点など、教員の授業準備や業務について、どのような変化が生じているのか。また、タブレットを活用することで効率化できている業務がある一方、新たに必要となった準備や負担などもあると考えるが、現在の教員の業務への影響をどのように捉えているのかお聞きます。
- (3) タブレットの使用時間が増加する中で、児童の視力や姿勢など健康面への影響について、教育委員会としてどのように把握・検証しているのか。また、GIGAスクール構想導入前から現在までの視力の推移などについて、継続的に検証する考えがあるのかお聞きます。
- (4) 令和7年6月定例会において同僚議員からもタブレット利用について質問があり、教育長答弁では、紙媒体には手書きや物理的な操作、体験活動によって記憶が定着しやすいメリットがあり、デジタルには情報収集や視覚的な要素を活用しやすいメリットがあるため、適切に組み合わせることが重要とのことでした。そこで、学年や発達段階、教科、学習内容に応じて、タブレットを活用することが効果的な学習と、紙や鉛筆を使うことを優先する学習を、教育委員会として整理しているのかお聞きます。
- (5) 特に小学校低学年においては、手書きや紙を使った学習を基本とし、タブレットはその特性を生かせる場面で活用するなど、発達段階に応じたデジタルとアナログの使い分けを、各学校の指導計画や授業改善の中に明確に位置付ける考えはないのかお聞きます。また、GIGAスクール構想第2期を進めるに

	当たり、タブレットを使うこと自体を目的とするのではなく、児童の学習効果と健康面の双方を考慮した、地に足のついたカリキュラムを構築していく考えがあるのかお聞きします。
--	--